

活動地域: 上京区

活動時期: 令和元年5月～



発表団体名:

同志社女子大学 みらい・まちづくりファクトリー
東 美緒・上中愛奈・三輪柊果・天野太郎

連携メンバー:

同志社女子大学
京まちや平安宮、山中油店、二条城北小学校

1 : 町家講座の展開～町家で学ぶ 京都の歴史と文化

活動時期: 2004年4月～現在

本講座は15年前に始まり、さらに2016年度後半から「学まち連携推進事業」として京都市からの補助金を活用しながら事業を展開し、地域住民との学習環境の整備を進めてきた。中核となる町家講座では年間8回(2019年度は4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、2020年2月)実施し、京都の中心市街地における平安時代からの遺構や伝統的な町家の保存と活用についてワークショップを実施してきた。

本講座を通して、京都市を中核として京都市内外の地域住民・研究者・学生企業等の交流の場を創出している。



2 : 町家を活用したコミュニティ・カフェの運営

活動時期: 2019年5月～現在

本学の授業の一環として、伝統ある京町家にてコミュニティ・カフェを運営し2019年6月、7月、9月、10月、12月に、地域住民や地域の小学生と交流を深めてきた。

コミュニティ・カフェの運営をしている学生の大半が富良野での地域連携型学習に参加していることもあり、富良野と本学が連携して行なっている地域学習の体験や学びを活かし、地域の人たちにお茶を提供するだけの場所ではなく、ワークショップを通して、大学と観光地とのありかたや、地域活性化の可能性について、交流を通して学びを深め、発信している。例えば富良野のラベンダーを使用したにおい袋作りを行うことを通して、地域資源のありかたや活用について考察した。

またラベンダーについてのチラシを参加者に配り、観光資源の成立経緯や課題について共に考える機会を得た。また、こどもたちにも作りやすいレジンにラベンダーの粒を入れアクセサリー作りを行った。二条城北小学校にチラシを配布したことや、ロコミなどにより徐々に参加人数が増加しており、学生が主体となって試行錯誤を重ねながら、地域と密着した空間を創生している。



今後の持続的な活用のありかたと課題

今後の課題としては、京都市を中心とした地域連携型での学びも含め、町家講座では地域住民の方々に生涯学習の場を創出し、コミュニティ・カフェでは地域住民とのワークショップを行うことや、町家を活用していくことで**持続的・かつ学生と地域住民の交流**を基盤とした中心市街地の活性化に繋げていきたい。